

ふじみサラダボール子育て情報

「知的発達と学び」

令和6年10月30日号

板橋富士見幼稚園



考える力と遊び

人間は、もともと群れて生活してきた動物のため、乳幼児期は特に親や周囲の大人への依存心が高く、たくさんの人に頼りながら生活していきます。そしてある程度の年齢に達すると、次第に自立に向かっていきます。自我や自立心が芽生えてきたら、今までしてあげていたことを「ママできないからやってみて」などと、自分でできるように転換していくことを心掛けてみましょう。その時に、「どうしたらできるかなあ」と自分で考えさせる言葉を掛けてあげてみてください。生活の中で継続的に考える習慣がついていくと、人に言われてから行動するのではなく、人に言われる前に自分で考えて行動することができるようになっていきます。

子どもの生活環境にはたくさんの出会いがあり、刺激を受けて思考を巡らせていきます。特に自然環境の中での出会いは多様性に富んでいます。この多様性に富んだ環境で、子どもの遊びを保証してあげると、自分のしたいことを実現するために継続的に考え、それを持続していくことができるようになっていきます。幼児期は遊びが生活そのものです。そして遊びは、「考える」を常態化することのできる、知的な営みなのです。

持続的に考える力は、小学生以降の学力を支える重要な力となっていきます。是非、教えるのではなく、生活や遊びの中でたくさん考えさせるようにしていきましょう。そのためにも、常に考えることができるような時間や空間を用意してあげてください。

【いちごの苗を植えました】



来年の春の収穫祭に向けて、年中さんがいちごの苗を植えました。

これからみんなで大切に育てていきます。